

山本作兵衛氏の炭坑記録画

～将来的な活用イメージ全体像案～

1. 将来的な活用イメージ（全体概要）

基本的な視点

- 下記の学びの観点を念頭においた上で、その価値を守り、伝えることにより地域が活性化している状態を示す（下図参照）。
 - ①作兵衛画そのものの魅力、描かれているもの
 - ②世界記憶遺産としての価値（なぜ、世界・人類の記憶遺産になったのか）、なぜ記録を残そうとしたか
 - ③絵と記録から、作兵衛さんの生き方
 - ④背景としての筑豊炭田における労働・生活と文化の歩み
 - ⑤炭鉱労働が日本の近代化・工業化、戦後復興をささえたこと、そしてスクラップされたこと
- 田川市郡一体の住民にとって、山本作兵衛氏の炭鉱記録やその価値を理解し誇りに思っている。
- 他の筑豊や「九州・山口の近代化産業遺産群」などと連携し、炭坑の遺産を学びに年間20万人もの人が訪れている。

サテライト部分（他の筑豊エリア含む）

【旅行者】

ファンクラブ (会員)パス



- ・炭券型の地域通貨（商品券）をビジターセンターで販売。
- ・この地域通貨を用いると、博物館等の入場料や、ホルモン焼きなどの飲食店で割引サービスが受けられし、土産にもなる。

【コア部分（田川市：石炭記念公園内・付近）

世界記憶遺産 センター（仮）

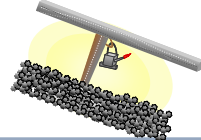
- 保存 ↔ 展示
- 企画
- 研究

ガイド
研修
資格

NPO・
市民

炭坑文化遺産

- 炭鉱遺産としてのビジターセンター
- 体験施設：三井伊田斜坑



各種情報発信

他の観光資源との組み合わせ（英彦山など）

【その他 体験施設】

川ひらたクルーズ

鉄道が発達する以前は、筑豊の石炭は川ひらた（五平太船）で遠賀川を下り、芦屋や堀川を経由して若松に運ばれた。水運時代に思いをはせながら、再現したひらた船で行なう。また、堀川の復元も検討する。）



商店街での各種取組

昔のあそび再現（紙芝居・蓄電機（コード））



炭住風ホテル

ガンガン七輪（炭坑で使われていた鉄製の七輪）を利用した料理体験（チヂミやお好み焼き、ピザなどを調理することも想定）。燃料は「殻（または坑木）」（※念のため、ガスも利用可）



蒸気機関車

田川伊田⇄田川後藤寺間において蒸気機関車を再現し試乗。



売勘場

昔、炭坑の町においては、米、酒、味噌、しょうゆ、塩、油など生活必需品の多くが売勘場で売られていた。番頭は枡のはかり売りで妙技を振るう。売勘場を再現し、はかり売りなどを体験することにより、当時の炭坑文化の一端に触れる。



山本作兵衛氏の関連遺産

山本作兵衛氏の旧家などを復元し、見学を行う。



2. 10年後の活用イメージに向けたプロセス

■エコミュージアムのコンセプト

近代化産業遺産の活用・保存については、住民の愛着心や醸成、遺産そのものの価値の認識、地域の歴史へ探求心などが、地域のアイデンティティを形成するのに大きな種となる。そこで、産業遺産の保存・活用する理念として、エコミュージアムの理念(※)をベースに考えることも想定される。本委員会では、エコミュージアム構想とエコツーリズムをかけあわせて、**エコミュージアム構想**と呼びたい。

(※)エコミュージアムの理念は、1960年代にリヴィエールが提唱した概念である。それまでの一部の専門家(学芸員など)で構成されていた博物館という枠組とは異なり、住民が中心となり、域内に広く存在している文化や文化財を域外の人々にインタープリテーションするというコンセプトであり、今ではその考え方にのっとりまちじゅう博物館などが出来てきている。

上記を念頭に下記のステップをもって実現していくことが考えられる。

項目		現在	3年後	5年後	10年後
①山本作兵衛氏の炭坑の記録画関連にフォーカスし、1泊2日程度の学びの旅(田川市単体)	現状実現可能なプランを作成	→			
	上記のインタープリターを育成(当初10人程度)	→			
	市民の間での共有化(勉強会・セミナー等 学校教育への落とし込み)	→			
②田川市の他の地域資源(英彦山等)を含めた学びの旅(田川市郡一体)	観光協会の立ち上げ	→			
	他の観光資源との組み合わせ	→			
	世界記憶遺産センター(仮)の整備	→			
	九州・山口の近代化産業遺産群広域のビジターセンター構想立案	→	→		
	NPO(インタープリターなど)等の設立	→	→		
体験施設の整備	→			→	
③筑豊エリア及び九州・山口全体を踏まえた際の学びの旅等(広域)	九州・山口の近代化産業遺産群広域のビジターセンター整備		→		

3. 世界記憶遺産センター（仮）の機能について

■機能概要

世界記憶遺産センター（仮）は、山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書に関する全体像をそこで示し、加えて田川地域を中心とする山本作兵衛氏関連遺産等（近代化産業遺産など）の周遊の起点となる機能が必要だと考えられる。

ここではガイド（インタープリター）や展示物、体験型メニューなどにより、山本作兵衛氏の炭坑の記録画や、域内の関連資料等の歴史や意義、見学の魅力などについて来訪者が楽しく理解出来ることが必要とされる。

■具体的な機能

(1) インタープリテーション機能

① 全体感の説明・学習

- ガイド（インタープリター）による説明、または動画等による説明

② 詳細（具体的な）説明・学習

- 文献や展示物などによる説明・学習
- 体験型メニューによる説明・学習

(2) 域内関連遺産等の紹介機能

① 産業遺産

- 例) 煙突、坑道

② 産業関連遺産

- 例) 商店街、三井寺（百円坂倶楽部）、旧三井事務所

③ 教育観光ツアー

- 域内の教育観光ツアー案内（バスツアー等）

(3) 物販等機能

① ミュージアムショップ

② 休憩

③ 飲食

(4) 研究・企画機能

① 山本作兵衛氏の作品等研究（業績、検証など）

② 展示・体験・図書等の企画開発

③ インタープリター（ガイド）育成

(5) 保存機能

- 山本作兵衛氏の作品等の保存